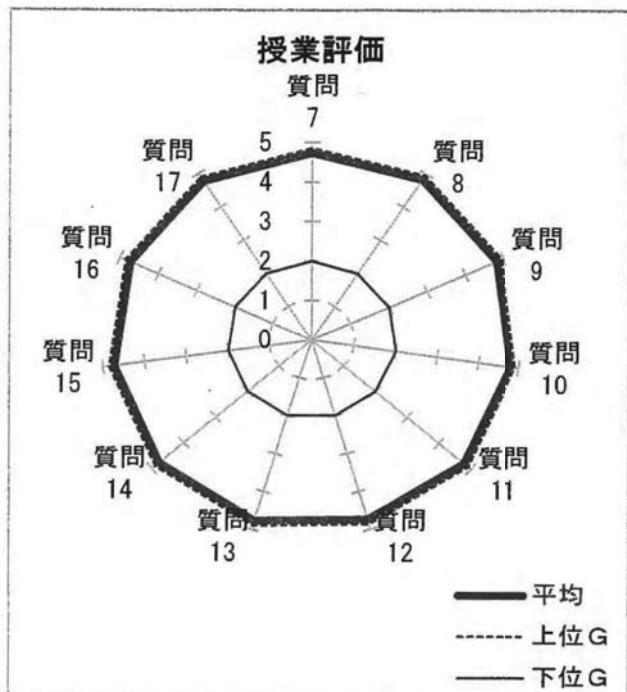


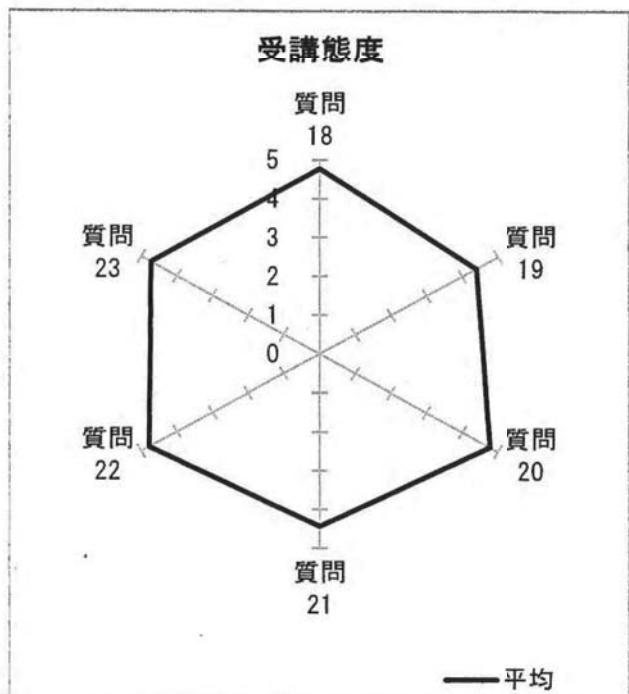
科目コード 800 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 政次 カレン Childcare English IV



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.9	2.0
質問 8	4.8	5.0	2.0
質問 9	4.8	5.0	2.0
質問10	4.8	4.9	2.0
質問11	4.8	4.9	2.0
質問12	4.7	4.9	2.0
質問13	4.8	4.9	2.0
質問14	4.8	4.9	2.0
質問15	4.7	4.9	2.0
質問16	4.7	4.9	2.0
質問17	4.8	4.9	2.0
平均	4.8	4.9	2.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.4
質問22	4.8
質問23	4.7
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	政次 カレン	Childcare English IV	23

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

Most students seem satisfied with and enjoyed this class. Most students worked hard in class, actively participated and interacted with each other, and tried to use English during classroom activities. I made an effort to vary my teaching materials, for example using photo slideshows showing Australian childcare and education, movie clips, popular songs, and children's songs and finger plays. I tried to connect the textbook to real-life situations the students might encounter and to their own lives. I tried to use English as much as possible, but used Japanese where necessary to support students who needed it.

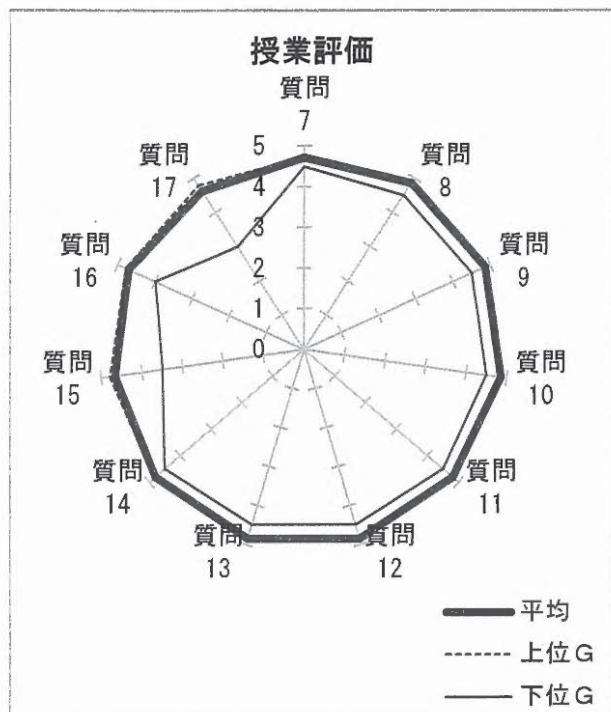
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：Childcare English IV

I will continue to supplement the textbook with my own materials to appeal to the students' interests and current concerns, and to create classroom activities which provide the students with as much interaction in English as possible. I will make sure the students understand the syllabus and course contents both at the beginning of and periodically during the course, and continue to regularly check their understanding of the course contents. I will try to give more support to those students who are less confident in English, and to show how the course content is relevant to their own lives.

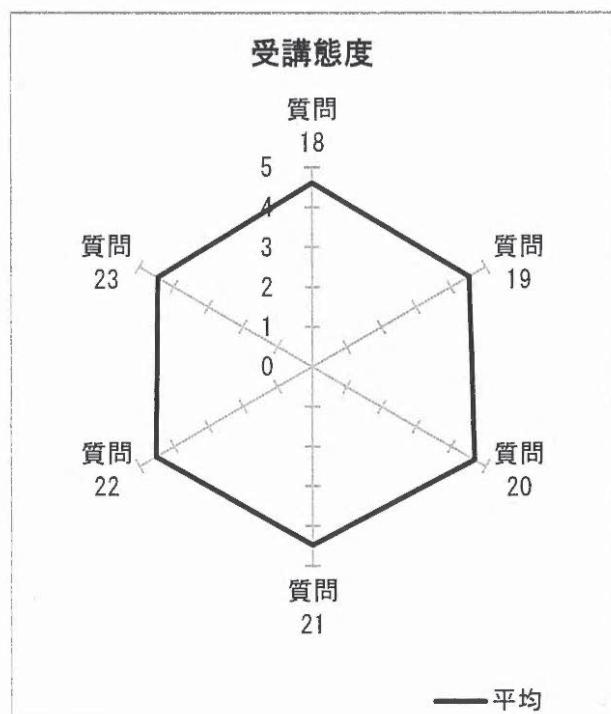
科目コード 801 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 政次 カレン Childcare English IV



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	4.5
質問 8	4.9	4.9	4.5
質問 9	4.9	4.9	4.5
質問10	4.9	4.9	4.5
質問11	4.8	4.8	4.5
質問12	4.9	4.9	4.5
質問13	4.9	4.9	4.5
質問14	4.8	4.8	4.5
質問15	4.7	4.8	3.5
質問16	4.7	4.8	4.0
質問17	4.6	4.8	3.0
平均	4.8	4.8	4.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	4.7
質問21	4.5
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	政次 カレン	Childcare English IV	23

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

Overall students seem satisfied with and enjoyed this class. Although they are a lower ability group they tried hard and willingly took part, interacted with each other, and tried to use English during classroom activities. The textbook was challenging for them, particularly the listening, but they showed interest in the content and I tried to connect the textbook to real-life situations the students might encounter. Some students may need more support in L1, or may not have understood my explanations. I made an effort to vary my teaching materials, for example using photo slideshows of Australian childcare and education, movie clips, popular songs, and children's songs and finger-plays. Weak point seems to have been a lack of understanding about the purpose of the class and whether this was achieved (Q.7), and confirming that students felt they had understood (Q.17).

II. 2018年度に向けての取り組み

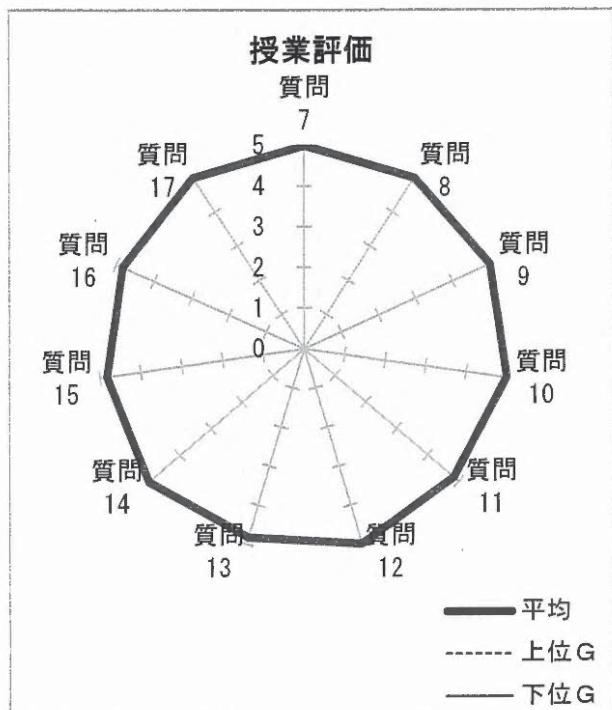
2018年度担当予定科目名：Childcare English IV

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I will try to keep the class as active as possible and to keep it relevant to the students' needs and interests. I will make more time for questions and for confirming understanding, as well as trying to make the purpose of the class clearer. I will continue to supplement the textbook with my own materials to appeal to the students' interests, and to create classroom activities which provide the students with as much interaction in English as possible. I will try to give more support to those students who are less confident in English, and to regularly check their understanding of the course contents.

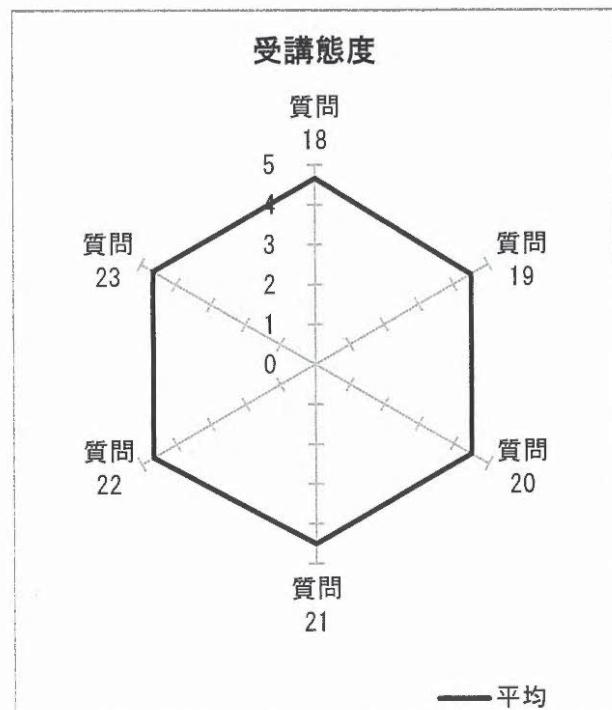
科目コード 802 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 政次 カレン E. C. E. E. Tp II



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.5
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	政次 カレン	E.C.E.E. Tp II	8

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

The students were satisfied with this class. Much of the class time is spent planning, preparing, practicing for and reflecting on teaching practice carried out at a local city primary school and nursery school. Students organized an English Halloween party for thirty five 1st, 2nd and 3rd graders, and an English Christmas party for sixty 3 to 6-year-olds which was very challenging for them. Only one student from the Child Development and Education Department was in the class and the English department students may need more background knowledge of child development and psychology, as well as practice in how to interact with children and nursery school teachers.

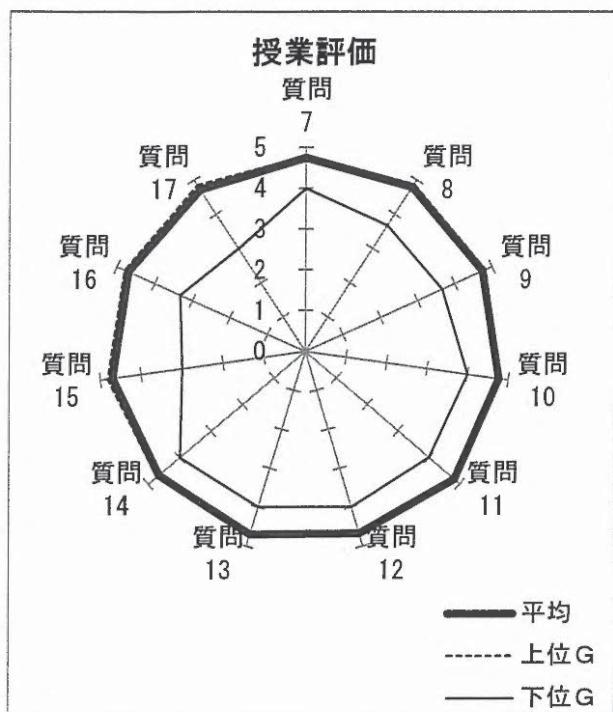
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：E.C.E.E Tp II

I will try to give the students more opportunities to share their knowledge and experience of both children and English education, and to encourage more use of English in the class. I will try to give the students more concrete theoretical knowledge and practical examples. I will continue to keep the class active and practical, with many opportunities for experiential learning.

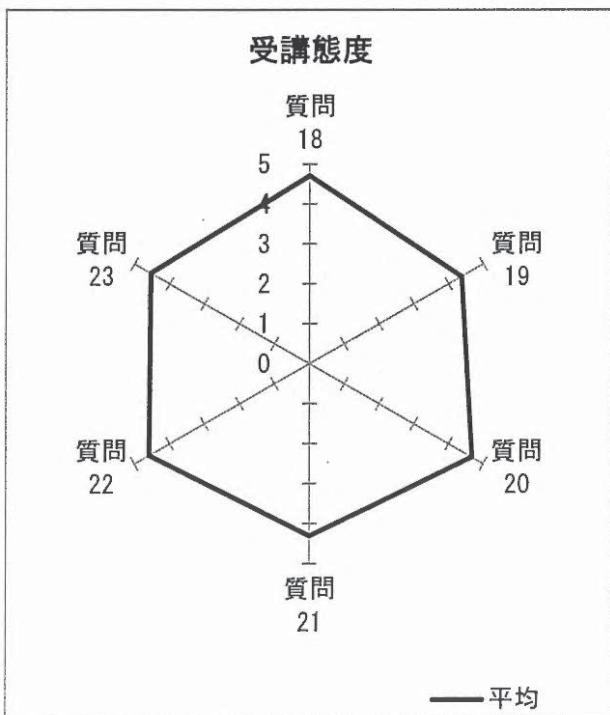
科目コード 803 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 篠永 洋 保育内容総論Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.7	4.8	4.0
質問8	4.8	4.9	3.7
質問9	4.7	4.8	3.7
質問10	4.8	4.8	4.0
質問11	4.8	4.9	4.0
質問12	4.7	4.7	4.0
質問13	4.7	4.8	4.0
質問14	4.7	4.7	4.0
質問15	4.7	4.8	3.0
質問16	4.7	4.8	3.3
質問17	4.7	4.9	3.0
平均	4.7	4.8	3.7

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	4.7
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	篠永 洋	保育内容総論Ⅱ	45

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今までのやりかたを大きく変えること無く授業を実施した。

授業評価については質問15, 16, 17の数字が上位Gと下位Gの差が大きく開いている。全て学生の授業に対する理解度や関心・意欲についての項目である。授業全体を通してグループワークが多かったので、開きが大きければ大きいほど学生の取り組みの姿勢に大きく影響が出ていたと考えられる。その分興味を持てずに授業時間を使っていた学生も多かったと考えられる。机間巡視の中で見つけることが出来なかつたので、今後はアクションペーパー等を活用して細かい修正が出来る態勢を整えてゆきたい。

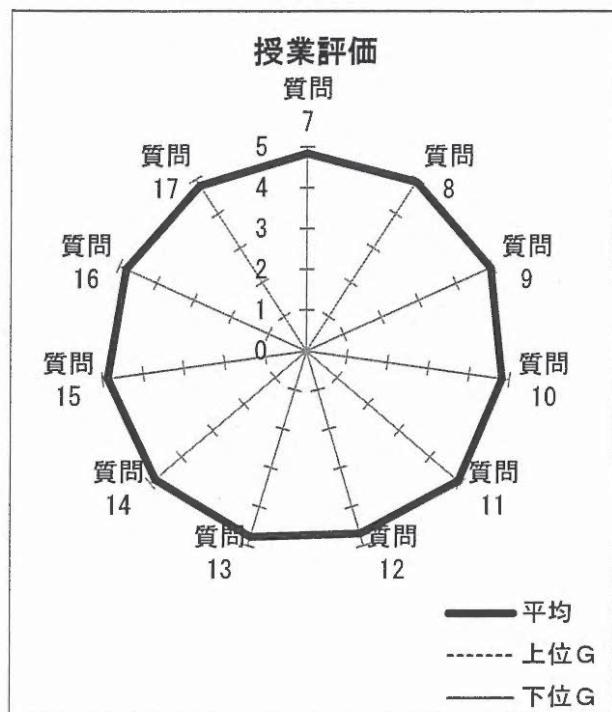
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：_____なし_____

養護と教育が総合的に展開される「保育」という営みについて、他の領域の授業の中でもこの領域が、他の領域とどのように絡んでいるかということを伝えることが必要とされるだろう。学生がきちんと領域からの視点を持ち、評価する能够るように授業内容を磨いてゆきたい。

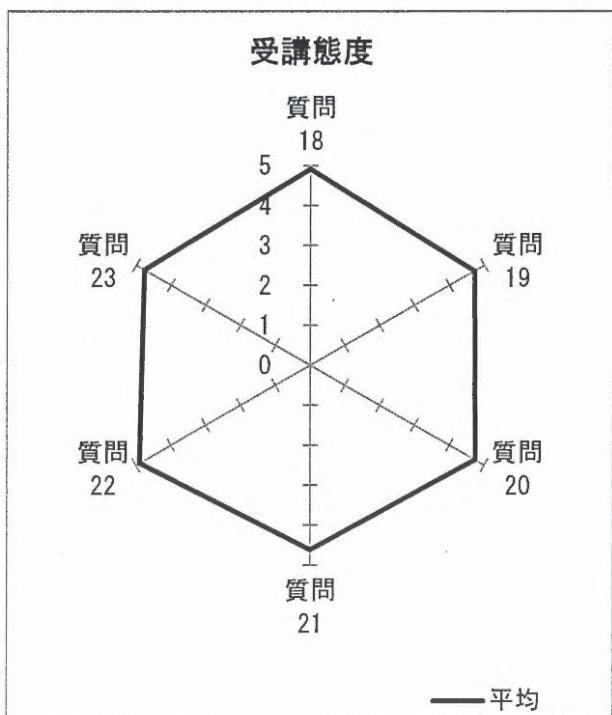
科目コード 804 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 篠永 洋 造形表現Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.7	4.7	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.7
質問21	4.6
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	篠永 洋	造形表現Ⅱ	39

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本年度より、「予習」と「復習」について、今まで以上に事細かに、折に触れて説明を行うよう努めた。実際、「復習」の部分については、ほぼ毎回振り返りプリントを配付し、その時間に作成した作品の写真を貼り付けて提出することを課題とした。（写真はメールで提出してもらい、プリントアウトは教員側で行った）返却した振り返りプリントは、ファイリングして自分のポートフォリオとしてまとめている。そこまで徹底したにもかかわらず、受講態度の質問**21**の評価が特に低くなっている。教員の言葉が全く届いておらず、理解されていないことだろう。授業の内容についても再度見直しが必要だと考えられる。

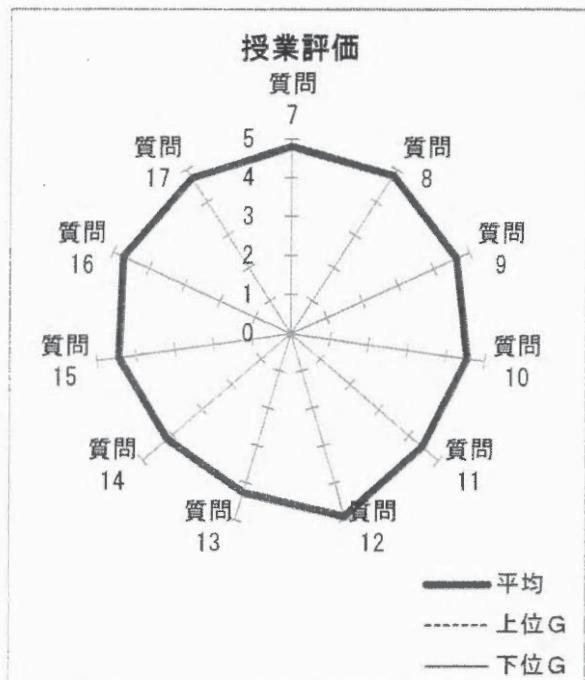
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：造形表現Ⅱ

保育実習を控えた時期の授業となるので、より現場での実践を想像できるような取り組みを行ってゆきたい。

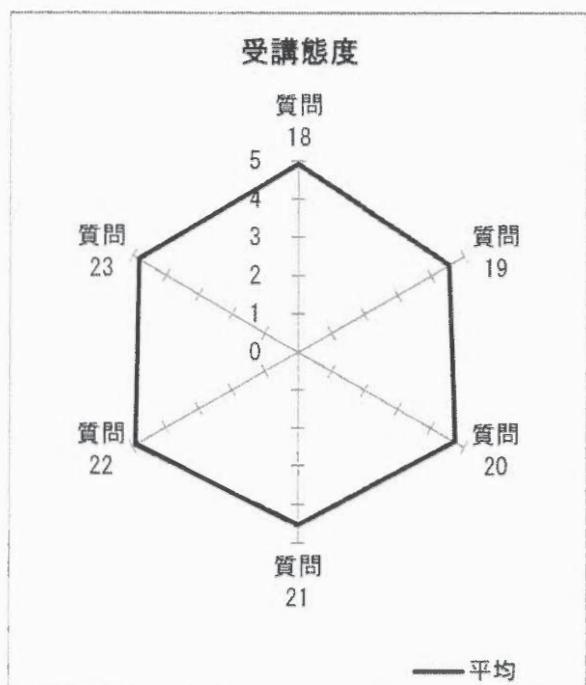
科目コード 805 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 大野 志保 学校保健管理



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.6	4.6	#DIV/0!
質問10	4.5	4.5	#DIV/0!
質問11	4.5	4.5	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.3	4.3	#DIV/0!
質問14	4.2	4.2	#DIV/0!
質問15	4.5	4.5	#DIV/0!
質問16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.6	4.6	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.5
質問20	4.7
質問21	4.5
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	大野 志保	学校保健管理	11

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

前期の「学校保健」に続く

授業評価については、質問13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」の平均点が低い結果であった。しかし、いずれの項目も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が8割を超えていたため、受講人数が少ないことを考慮すれば、それほど低い評価ではなかったといえるのではないか。

授業態度については、質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」、質問21「授業の予習・復習をおこなったか」の平均点が4.5と他の項目よりも低い結果であった。授業内容については、第1回目の授業でシラバスを提示してシラバス通りに進めており、これは、質問7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」の評価は高かったことからも分かる。単純集計のみの結果だけから読み取ることは難しいが、授業評価の平均点が低かった項目との関連もあるのではないかと考えられる。

II. 2018年度に向けての取り組み

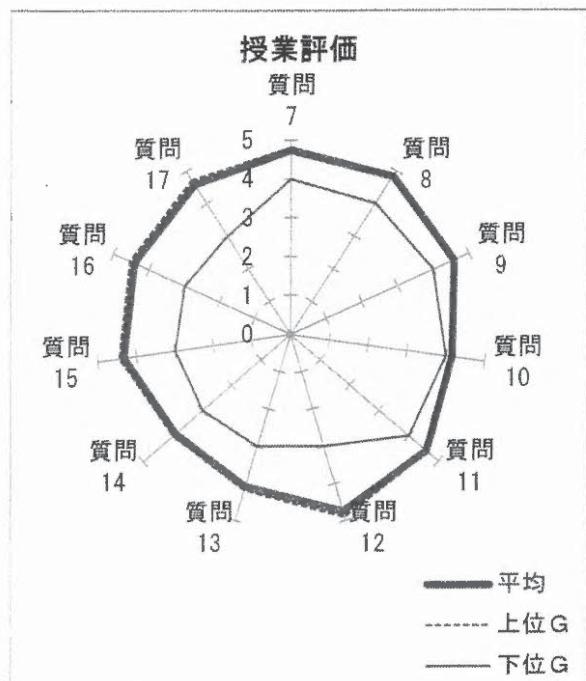
2018年度担当予定科目名：学校保健管理

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

上記評価項目の「質問機会の確保と質問への適切な対応」及び「学生の理解度の確認と授業への反映」については、授業終了時にアンケートを取るなどして、「わからかなったこと」と多くの学生が答えていた項目については、次の授業で解説を加えるなどして改善していきたい。

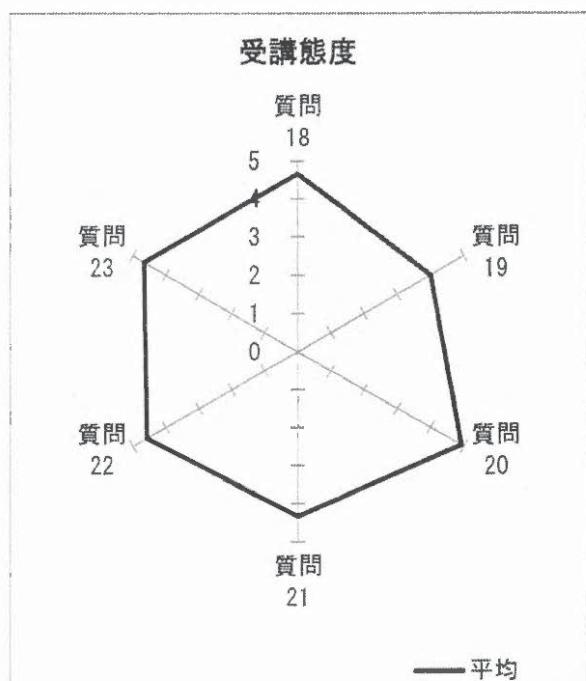
科目コード 806 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 大野 志保 救急法



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	4.0
質問 8	4.8	4.9	4.0
質問 9	4.6	4.6	4.0
質問10	4.2	4.2	4.0
質問11	4.6	4.6	4.0
質問12	4.8	4.9	3.0
質問13	4.1	4.2	3.0
質問14	3.9	4.0	3.0
質問15	4.3	4.5	3.0
質問16	4.4	4.5	3.0
質問17	4.6	4.7	3.0
平均	4.5	4.5	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.0
質問20	4.9
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	大野 志保	救急法	12

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価については、質問13「質問機会の確保と質問への適切な対応」質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」の平均点が低い結果であったが、多くの学生が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」に回答しており、「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した学生がいたため、受講人数が少ないこともあり、平均値が下がったのではないか。

受講態度については、質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」の平均点が低い結果であった。8割以上の学生が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答していることから、おおむね授業内容や到達目標を理解して受講していたと考えられる。

II. 2018年度に向けての取り組み

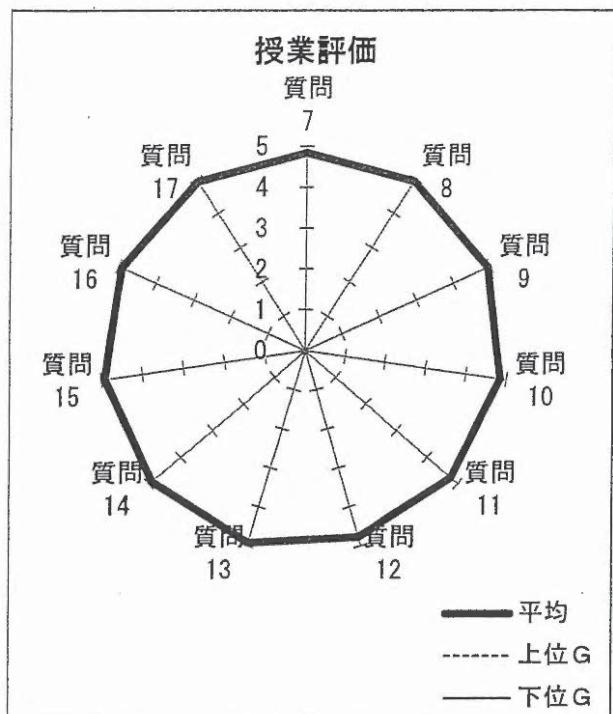
2018年度担当予定科目名：救急法

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

上記評価項目の「質問機会の確保と質問への適切な対応」及び「学生の理解度の確認と授業への反映」については、授業終了時にアンケートを取るなどして、「わからかなったこと」と多くの学生が答えていた項目については、次回の授業で解説を加えるなどして改善していきたい。

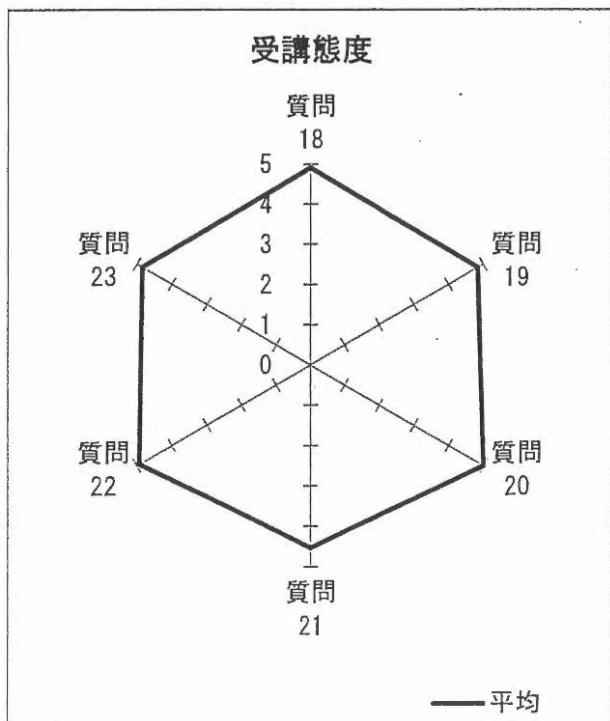
科目コード 807 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 嵐山 映子 看護学 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	5.0
質問21	4.5
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	嵩山 映子	看護学 I	13

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

【授業評価】

質問7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」

質問8「授業時間遵守」

質問9「教員の話し方」

質問10「教材・機器・板書等の効果的な使用」

質問11「教員の説明のわかり易さ」

質問12「教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)」

質問13「質問機会の確保と質問への適切な対応」

質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」

質問15「(自分は)授業を理解できたと思うか」

質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」

質問17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」

いずれも授業評価が4.8~4.9であり、受講生からの授業の受け入れはよかったですと思われる。

【受講態度】

質問18「(自分は)授業に真面目に取り組んだと思うか」平均4.9

質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」平均4.8

質問20「欠席回数」平均5.0 欠席回数0。

質問21「授業の予習・復習をおこなった」平均4.5

質問22「レポート・課題等に積極的に取り組んだか」平均4.9

質問23「私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発現傾聴」平均4.8

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：看護学 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

授業時間を守り、授業内容についてさらにわかり易いような内容にしていきたい。そのためにはレジュメを作成・配布しそれに沿って行っていくつもりである。

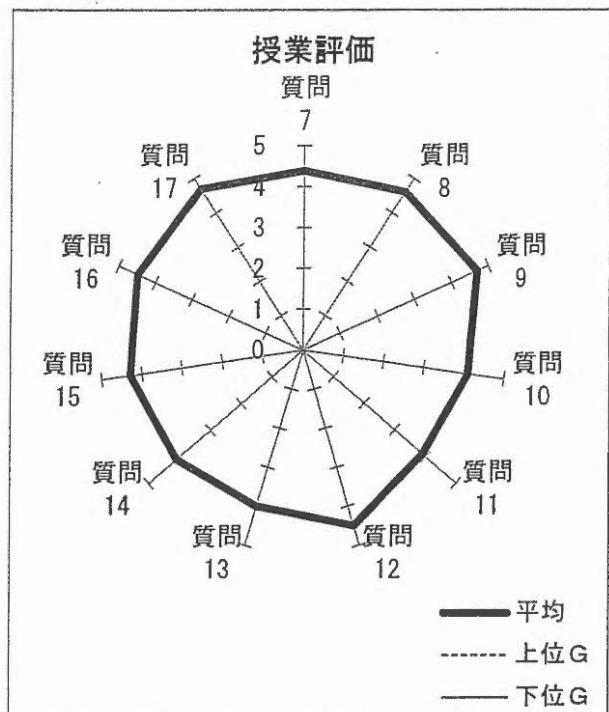
話し方で聞き取りにくいことがないように配慮することはもちろん、私語がないように巡回したり、板書を効果的に使い、授業が一本調子にならないように今後も努力していきたい。

そして今回予習・復習を行ったか。についての回答の平均点が4.5と際立って低かったこともあるが、課題が少なかったと思われるので、課題について熟慮し、難しい医学用語が少しでも吸収しやすいように、予習・復習などの様々な形での課題やレポートなどを出してそれに取り組んでもらうようにしていくつもりである。

反省点もあるが、受講生が授業への取り組みが真剣で誠実であったと思われる所以、やりがいがあった。そして、授業が楽しかったと言ってくれた学生がいたのでとてもうれしかった。

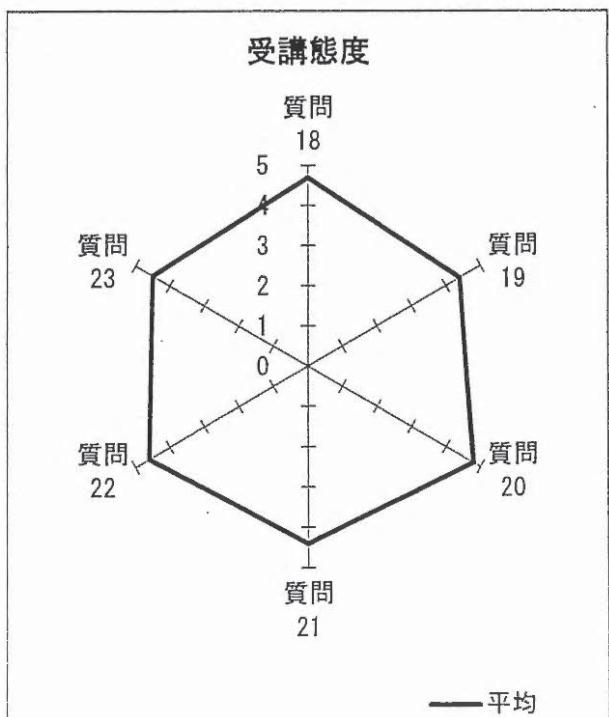
科目コード 808 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 嵩山 映子 看護臨床実習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.4	#DIV/0!
質問 8	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 9	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 10	4.1	4.1	#DIV/0!
質問 11	3.9	3.9	#DIV/0!
質問 12	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 13	4.0	4.0	#DIV/0!
質問 14	4.1	4.1	#DIV/0!
質問 15	4.3	4.3	#DIV/0!
質問 16	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.3	4.3	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.4
質問22	4.6
質問23	4.5
平均	4.6

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	嵩山 映子	看護臨床実習	10

I. 分析と評価

【授業評価】

質問7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」において回答評価平均4.4。

質問10「教材、機器、板書等の効果的な使用」は回答平均評価4.1。

質問11「教員の説明のわかり易さ」の回答平均評価は一番低く3.9であった。

質問13「質問機会の確保と質問への適切な対応」でも4.0と低値であった。

質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」4.1

質問15 「(自分は)授業を理解できたと思うか」が評価4.3。

質問8「教員の授業時間厳守」評価平均4.6、質問9「教員の話し方」評価平均4.7、質問17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」の評価平均4.7とこの3項目については、比較的高値であり学生は授業を前向きに捉え、取り組んでいることが伺える。

しかし一方『看護臨床実習の講義』の内容は、前期から引き続き専門用語・医学用語や看護用語などが多かった。その上さらにレポート量が増え、事例をまとめる際も実際の体験を振り返りながら、看護過程に沿ったレポート仕上げと提出・発表まで行ってもらったので、十分な理解ができる余裕はなかったかもしれない。

それでも臨床実習では、学生が休まず最後までしっかりとやり遂げたことは誉めてあげたいと思う。

質問15の評価平均4.3については、理解してもらうための工夫がもっともっと必要であることを認識しながら講義にあたりたいと思う。

【受講態度】

質問18「(自分は)授業に真面目に取り組んだと思うか」の回答評価平均は4.7とやや高かった。

質問20「欠席回数」は4.8と欠席者は少なかった。このことからも、学生の『看護臨床実習の講義』への取り組み方は専門分野でもあり、理解しようと熱心に取り組んでいたと思われる。

質問19 「授業内容や到達目標を理解して受講したか」は、回答平均評価4.4。

質問21「授業の予習・復習をおこなったか」に対しても回答平均評価4.4と低かった。内容が多く理解して欲しかったが、そのためには予習復習に課題を上手くのせるなどして授業内容にもっと工夫が必要だったと反省させられた。

質問項目全体の平均評価は、4.6であり、決して高い数値とは言えない。

授業の目標は看護臨床実習を受けるための準備であるために、私自身がここまで知っていて欲しい。という内容で授業を進めているし、学生ももっと知りたいと思っている。だから学生との距離感を考えながら、もっともっと噛み碎いた内容に工夫していこうと思う。

II. 2018年度に向けての取り組み

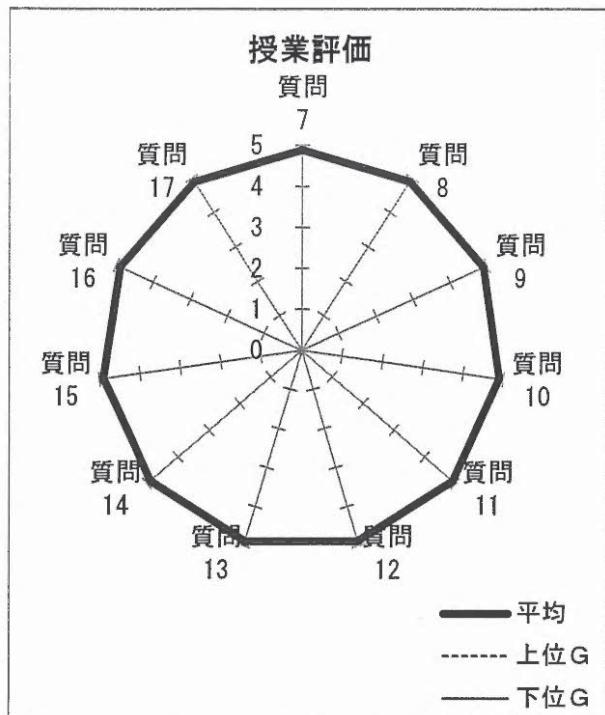
2018年度担当予定科目名：看護臨床実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

後期の看護臨床実習を受けるための準備として、前期で事前準備として理論も理解してもらい、現場についても触れながら、学生が学びやすくより理解を深めやすい授業にしたいと思う。また、後期では、臨床実習の事前指導と事後指導の中で実習の現場でのことをまとめやすいように講義を取り組んでいきたい。

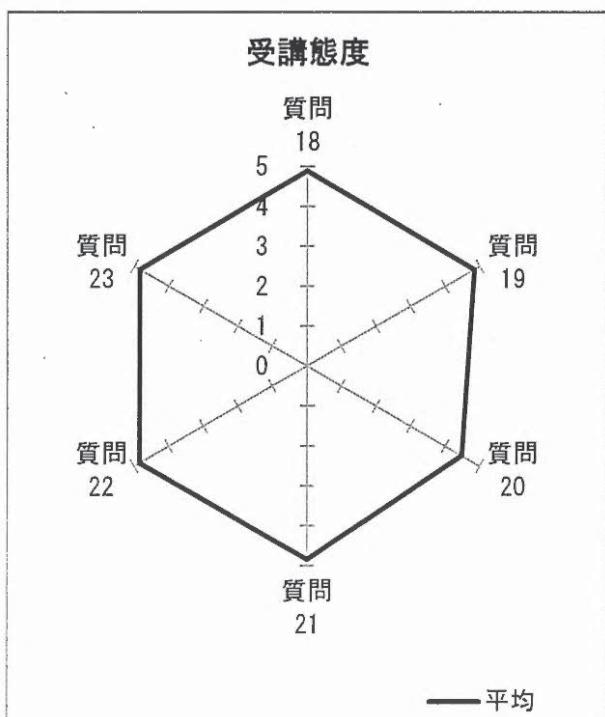
科目コード 810 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 前田 志津子 幼稚園教育実習指導



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.5
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	前田志津子	幼稚園教育実習指導	23名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年前期に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目は通年の科目であり、前期から後期の4週間の本実習へのつながりを見通して、まず幼稚園現場との連携を図ること。そのなかで、現場に出掛け基礎実習と体験実習を意識して子どもの実態からその成長過程を把握するが少しでも可能となるように、同一クラスに配属し指導を行ってきた。

第1回目は、入園・進級当初の子どもの実態を知るための見学である、第2回目は、1ヶ月後の子どもの変化が捉えられるように観察・参加を通して子ども理解に努めること。第3回目は、学生が責任もって子ども達の前に出て計画的保育活動を行うことである。保育終了後クラス担当者からコメントをいただきことで次に担当する学生にも参考になることが多々あった。1クラス3名の配属であるため、実際の保育活動3回を積み重ねていくことができた。

特に保育を行う上で重視したことは、現場での実際の学生状況、子ども達の状況と学生のかかわりからの反応等を全クラス巡回して得た記録を基に、授業で振り返り確認し、次への実践へ向かう手がかりをつくっていった。つまり子どもの実態から、指導案作成、保育の実際へとつなげることである。

一人ひとりの指導案を基にして具体的に子どもの姿とねらいの関係性が学生自身理解できたと思われる。学生から「やっと分かった」との声も聞かれ、学生の成長がみられるようになった。

実習の事後指導においては、4週間の本実習での実習日誌、保育の実際の記録を基に個別面談を実施し、さらに一人ひとり報告書としてまとめることができた。

II. 2018年前期に向けての取り組み

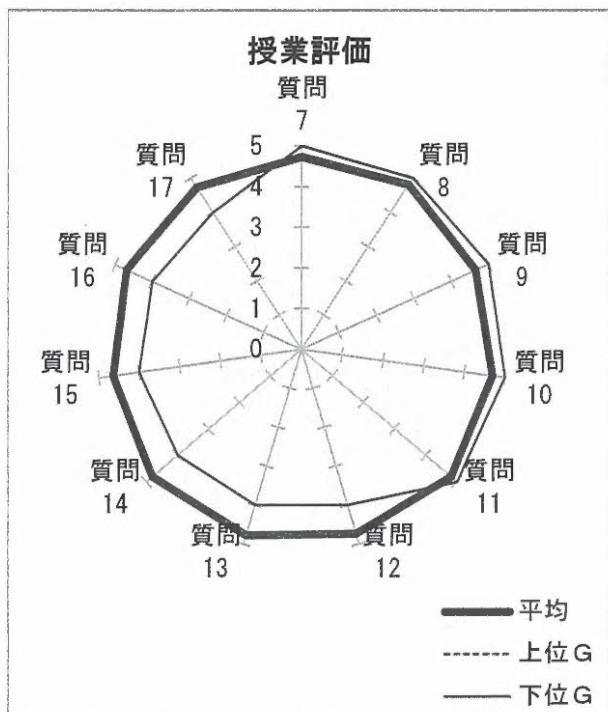
2018年度前期担当予定科目名：

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

これまで学んできている科目と幼稚園教育実習とのつながりを明確にし、学びの面白さ、子どもにかかることの楽しさと奥深さが実感できるような指導を行う。

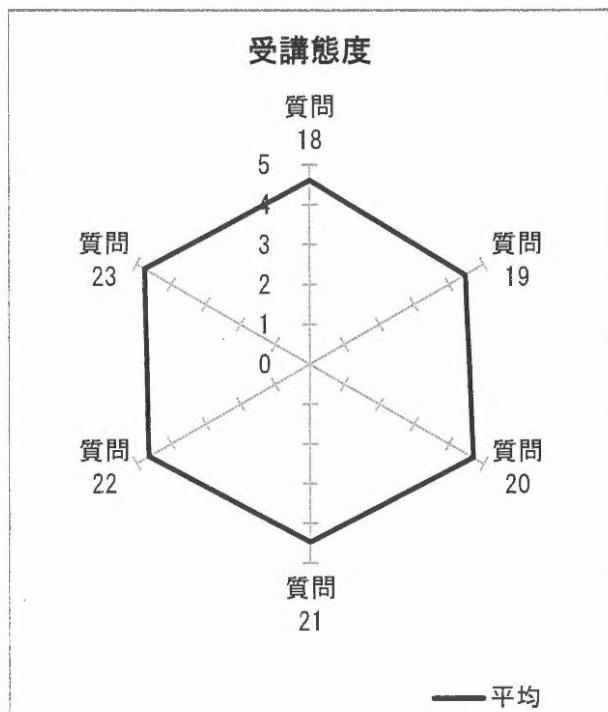
科目コード 811 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 金 瑛 呈 児童家庭福祉 II



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.7	4.6	5.0
質問10	4.7	4.7	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.7	4.8	4.0
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.8	4.8	4.0
質問15	4.7	4.7	4.0
質問16	4.7	4.7	4.0
質問17	4.7	4.8	4.0
平均	4.7	4.7	4.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	4.7
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.6

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	金 瑛呈	児童家庭福祉II	26名

2017年度後記授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

子ども学科独自のカリキュラム変更により、2017年度から開講された授業である。同じ1年次の後期に「児童家庭福祉I」と並行して開講されているため、「児童家庭福祉I」と違う「児童家庭福祉II」の科目の性格をより明確にする必要があると思われる。

1年次前期の「社会福祉」と同時期に開講されている「児童家庭福祉I」の授業内容を踏まえ、社会福祉専門職である保育士を目指して勉強している学生は児童家庭福祉の一分野である「保育」に焦点を当て行った。社会福祉の大きな枠組みのなかで、保育の制度、現代の保育所の社会的機能および役割について理解する必要がある。

1年次前期からさまざまな科目のなかで勉強してきたはずの「保育の新制度」の基礎的な知識についての理解が不十分な学生が多く、科目担当教員としては教材研究に関してかなり悩みながら、行った授業である。これまでの生活のなかで馴染みの用語に対する違和感や社会システム全体のなかで保育を捉えることの意味に対する認識が見られない1年生に、より分かりやすく、一人ひとりが社会福祉の一分野として保育について興味、関心を持てるようにするために、科目の性格の明確化、内容を伝えるための具体的な方法への工夫などがより必要だと思われる。

引き続き、学生一人ひとりが意欲をもち、主体的に授業に参加できるような授業の内容について工夫していきたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：児童家庭福祉II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。) 学生が授業に興味を持ち、意欲的に参加できるように引き続き、以下の教育方法の工夫を行う。

①授業の構成やレジュメ作成上の工夫

：90分授業で概ね3つの小テーマを用意し、メリハリのある授業を行う。またレジュメには「本日の授業内容」を明記し、冒頭に確認して学ぶ内容のイメージを提示するとともに、学生が授業後に達成度を評価できるようにしている。

②授業を進め方の工夫

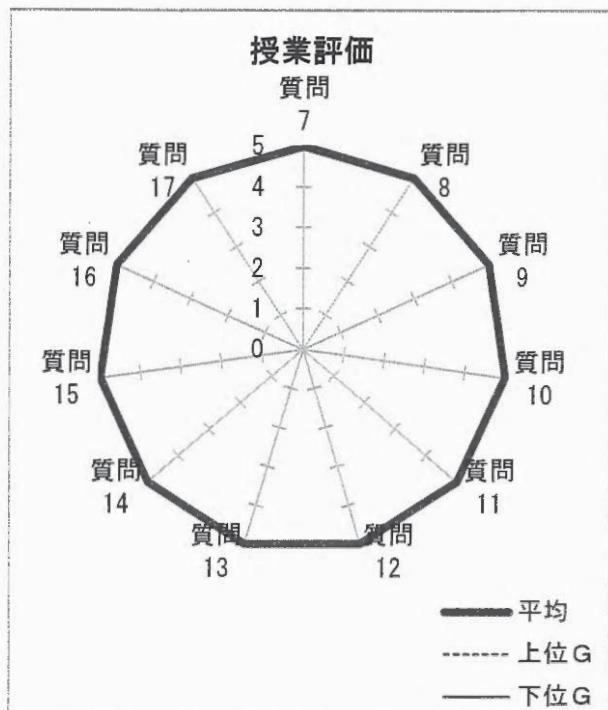
：授業では問いかけを行い、常に学生に考えることを促す。問い合わせや視聴覚教材などを観た後は、必ず意見や感想を聞く。決められた時間の中で自分の考えを言語化し、他者に伝えることは実習や就職してからも必要なことである。

③双方向的な授業にする工夫

：毎回「リアクション・ペーパ」を提出してもらい、次回にフィードバックすることで、以下の教育効果を実感している。まず、学生がどの程度理解できたのか、また私の説明が不十分な個所を知ることができ。また、授業から他人の考え方、価値観の多様性を実感し、自分の考え方、価値観を相対化することに役立つ。さらに、「読んでもらい自信がついた」など、学生の学習意欲向上にも有効である。

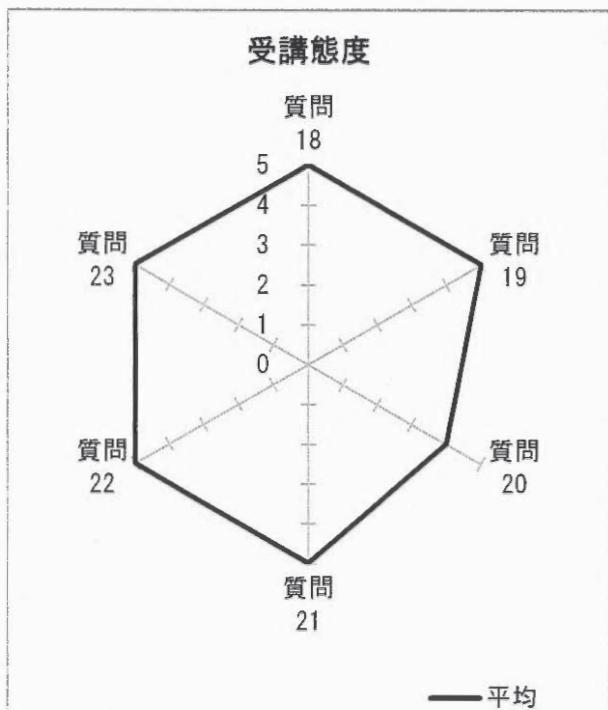
科目コード 812 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 金 瑛皇 3年セミナーb



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	金 瑛呈	3年セミナーb	4名

2017年度後記授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

少人数のゼミでの授業評価アンケートであったため、全体的に評価は高い。

3年になって、はじめて自分の研究テーマを設定し、毎週ゼミのメンバーと調べ、レジュメを作成し、討論することを重ねていくなかで、ゼミメンバー（相手）に対する理解が深まる。また、自分の違う考え方を持つ相手と話し合いを行うなかで、物事に対する多面的な捉え方や考えの多様性について気付き、自分の異なる相手を受け入れ、共感する力が付くと思われる。

集団として行うゼミ活動と、一人ひとりに対する個別指導（研究テーマの設定や報告書の作成など）をバランスよくとりながら、引き続き、学生一人ひとりが意欲をもち、主体的に授業に参加できるような授業の内容について工夫していきたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名:3年セミナー

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

学生が授業に興味を持ち、意欲的に参加できるように引き続き、以下の教育方法の工夫を行う。

①授業の構成や内容について

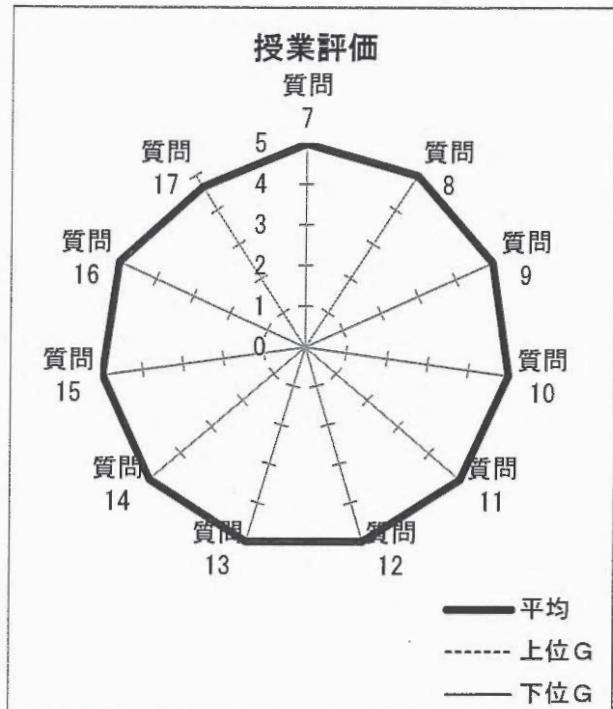
：学生から提案があったゼミ活動を多く取り入れながら、3年セミナーとして行わなければならない内容（研究テーマの設定について、論文とは何か：資料や先行研究の整理、論文の書き方など）を並行して実施する。また、単なる「楽しい」授業ではなく、その「楽しさ」から一人ひとりが何を学び、考えていくかを意識化させていく。さらに、他の授業と違って、一方的に説明を受けることなく、自分たちでゼミの内容を決め、運営していくなど、主体的にゼミに参加できる。

②授業を進め方の工夫

：授業では問い合わせを行い、常に学生に考えることを促す。一つのテーマを決め、それについて調べ、ゼミの時間で報告を行う。その報告内容を受け、全員に必ず意見や感想を聞く。決められた時間の中で自分の考えを言語化し、他者に伝えることは実習や就職してからも必要なことである。

科目コード 813 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 田渕 久美子 3年セミナーb



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

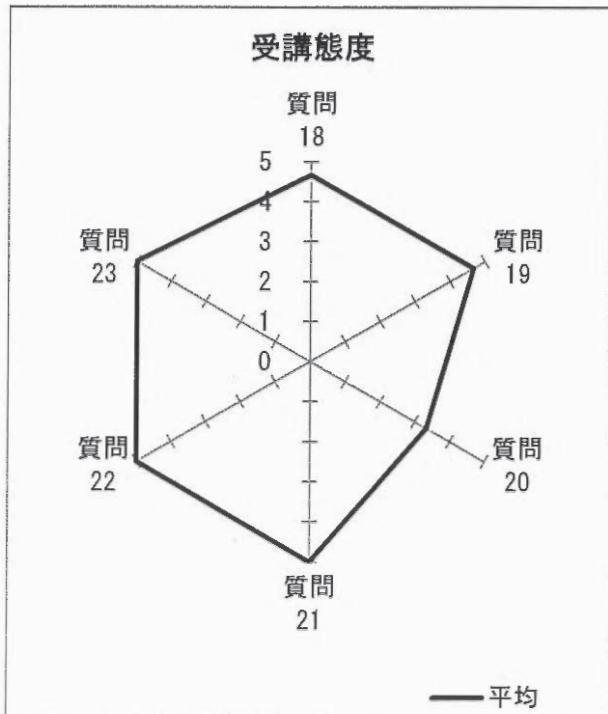
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.7
質問20	3.3
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.6

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	田渕久美子	3年セミナーb	5

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

評価について、質問17の「新しい知識・技術・理論等の修得への有用性」が4.7、それ以外の項目について、5.0の評価であった。質問17のところが若干低かった理由はよくわからないが、これまで学科の講義で聴いているであろう内容と関連づけることに重点があつたため、「新しい知識」として理解されなかつたのではないかと思う。

II. 2018年度に向けての取り組み

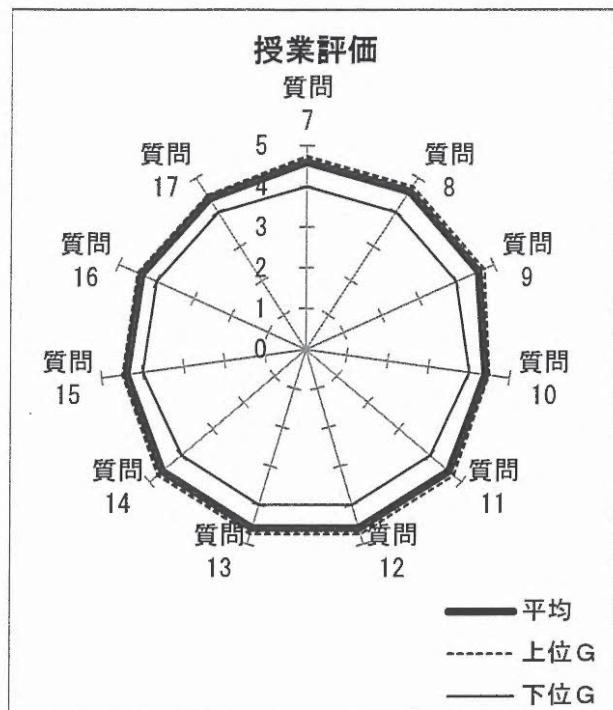
2018年度担当予定科目名：3年セミナーb

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

とくにセミナーのやり方を大きく変えなければならないとは考えられない。
学生の欠席も実習などやむを得ない事情も多かつたし、大きな問題は感じない。

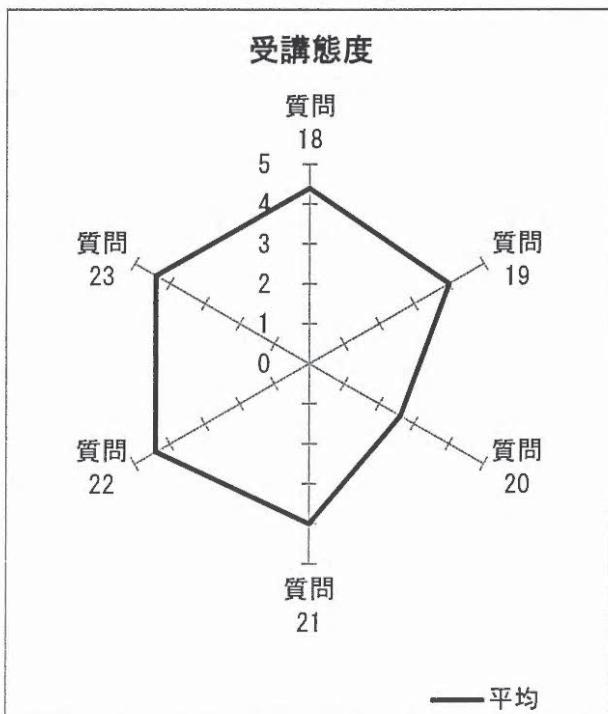
科目コード 814 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 田渕 久美子 4年セミナーb



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.8	4.0
質問 8	4.6	4.8	4.0
質問 9	4.6	4.8	4.0
質問10	4.4	4.5	4.0
質問11	4.6	4.8	4.0
質問12	4.6	4.8	4.0
質問13	4.6	4.8	4.0
質問14	4.6	4.8	4.0
質問15	4.4	4.5	4.0
質問16	4.4	4.5	4.0
質問17	4.4	4.5	4.0
平均	4.5	4.7	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.0
質問20	2.6
質問21	4.0
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.0

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	田渕久美子	4年セミナーb	9

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全般的にセミナーとして過去に行ってきたものの評価よりは点数が低い。質問7は、なぜ5.0にならないのかわからない。また質問10について、セミナーでは、黒板や機材を使わないのが普通だと思うが、その点数が低いことをどう受け止めれば良いのかわからない。

II. 2018年度に向けての取り組み

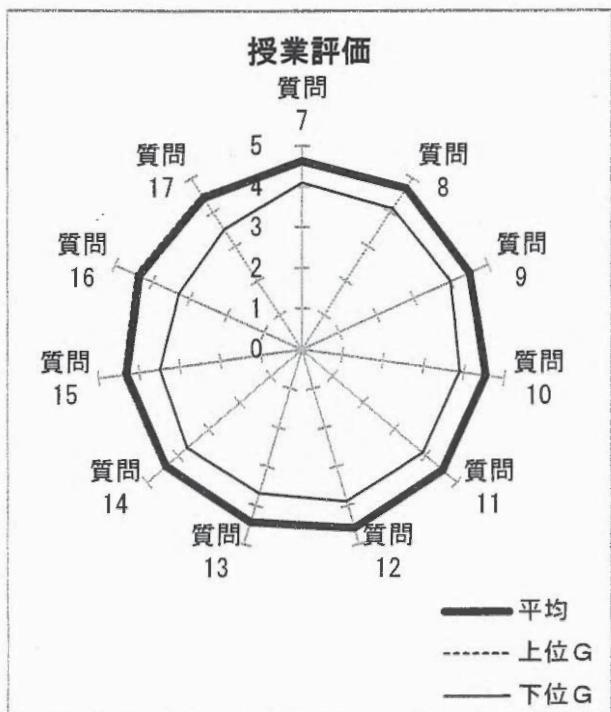
2018年度担当予定科目名：4年セミナーb

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生がどういう視点で評価しているのかよくわからないことから、どう改善すべきなのはわからない。

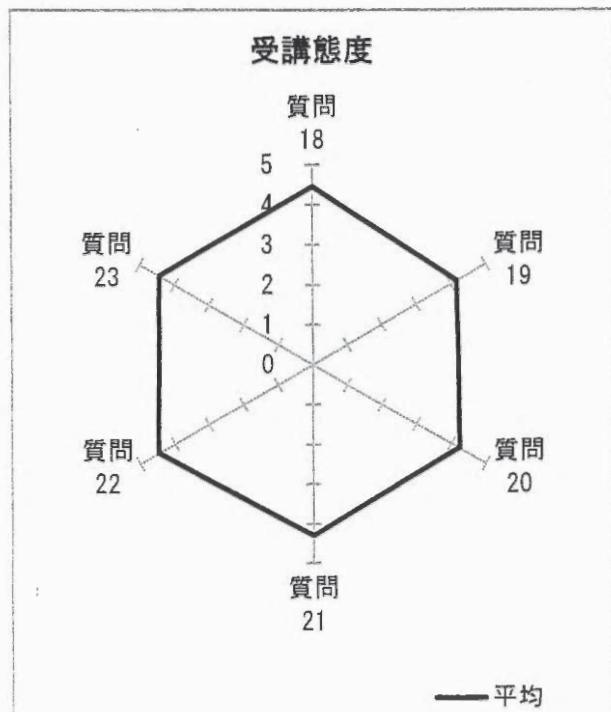
科目コード 815 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 石川 由香里 ジェンダーから見る社会



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	4.1
質問 8	4.7	4.8	4.1
質問 9	4.5	4.6	4.0
質問10	4.5	4.6	3.9
質問11	4.5	4.6	3.9
質問12	4.6	4.7	3.9
質問13	4.4	4.5	3.7
質問14	4.4	4.5	3.7
質問15	4.3	4.4	3.5
質問16	4.4	4.5	3.3
質問17	4.4	4.5	3.5
平均	4.5	4.6	3.8

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.2
質問20	4.2
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.4
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
全学部	全学科	石川由香里	ジェンダーから見る社会	107

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全実施科目の平均とほぼ同じような数値が並んでいる。共通教養の選択必修科目となっているので、最初からあまり興味・関心がないものの、仕方なく履修している学生もいるものと思われる。今年度の最大の反省点は、前期のシチズンシップと重なる内容がかなり多くなってしまったことで、それが質問17の「新しい知識・技術・理論等の習得の有用性」の数値を抑えるのではないかと思われる。しかし一方で、質問15の「(自分は)授業を理解できたと思うか」が最も低い値となっていることから、重複した問題を扱うことが、理解を促しているわけでもないようだ。質問16の「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」においてもっとも授業態度上位と下位との数値が開いていることから、もともと興味の持てない層にどのようにアピールするかが、今後の課題であると考える。

一方、評価できる点としては、受講態度下位とされる学生が1割に満たないことであり、学生自身は主体的に授業に取り組んでくれていると考えられる。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：ジェンダーから見る社会

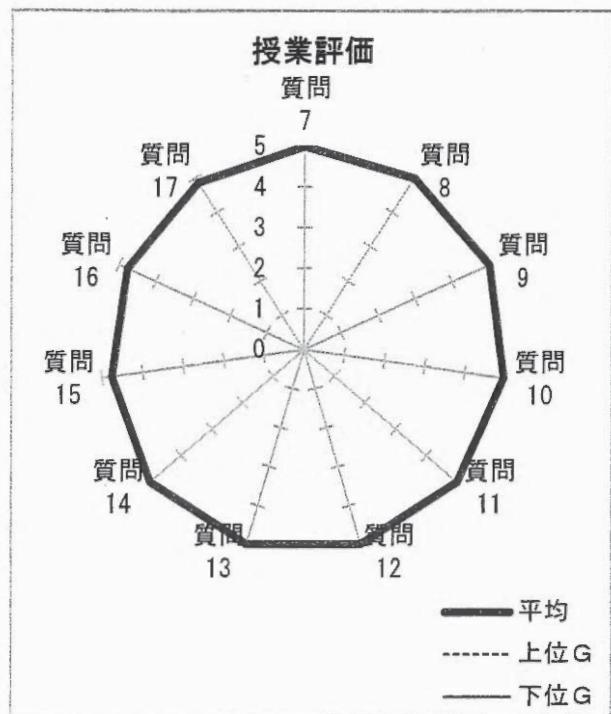
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

シチズンシップとの内容を調整することにより、既習感の払拭に努める。また、映像を取り入れるなど、関心の薄い学生にも興味を持ってもらえるような取り組みをしていきたい。また留学生も複数履修しているので、漢字にルビを振るなどの配慮も行いたい。

学生が主体的に取り組めるように、これまでと同様、予習ワークシートを事前に準備し、その内容をグループで話し合ったうえ、全体で確認するというルーティーンについては続けていきたい。

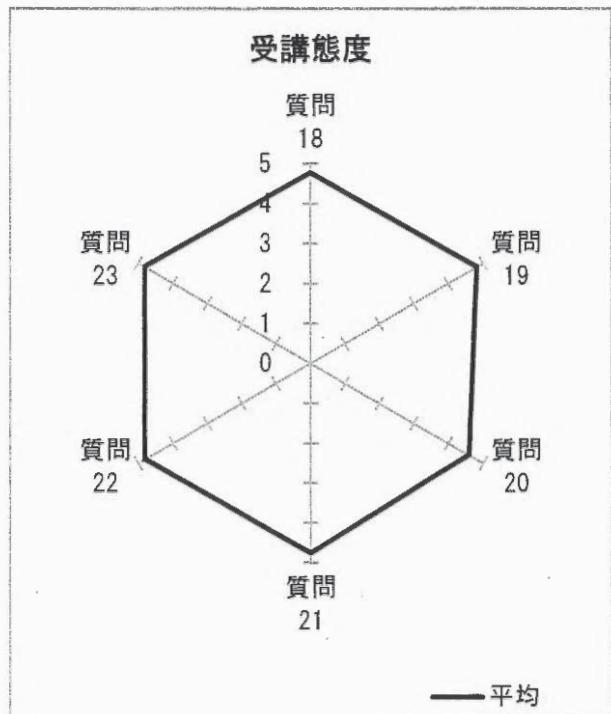
科目コード 816 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 石川 由香里 人間形成論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.8
質問20	4.8
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	石川由香里	人間形成論	22

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

学生たちの主体的な取り組みにより、受講態度において下位グループに組み入れられるものが存在しない点こそが、最も評価できる点だと考える。この授業の受講生は、前期の教育社会学を履修していたものが多かった。その際、学生たちには前期で扱ったテーマのうち自らが最も関心の高いものについてのレポートを課題として出した。後期のこの授業では、そのレポートから各自に対し、さらに発展した内容を発表することを課題とし、履修していなかった学生に対しても個別にテーマを提示して同様に発表してもらい、そこから質疑応答を繰り返す授業形態をとっている。学生たちの質問は非常に活発で、発表者も懸命にその質問に回答していた。最終レポートは、それらを踏まえて、さらに深化したものを作出するように求めていた。

こうしたプロセスによって学生、教員ともに充実した時間を過ごすことができ、それが高い数値に結び付いたと考えられる。

II. 2018年度に向けての取り組み

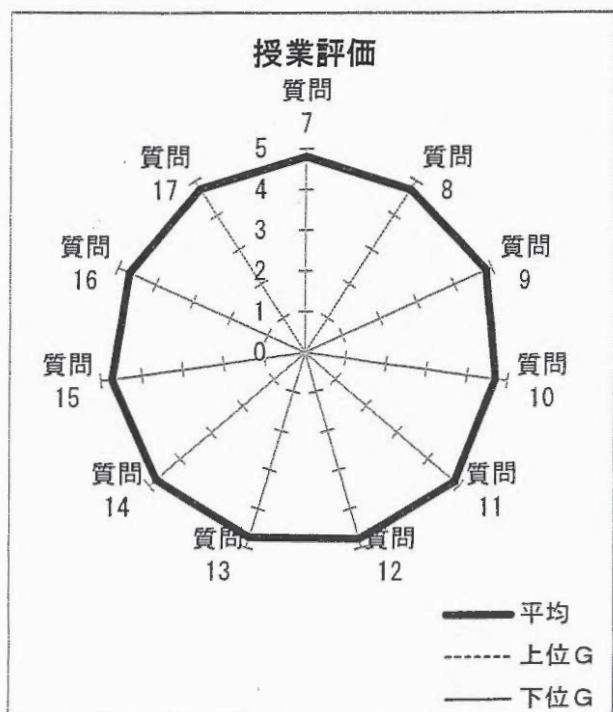
2018年度担当予定科目名：人間形成論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

前期の教育社会学の担当を非常勤に依頼したこともあり、前年度と同じ形式をとることは不可能である。今年度の学生の課題として、じっくり文献を読み解く力が弱く、とくに理論に接する機会が少ないことがあげられる。そこで1冊の文献を皆で読み解いていくという、新たな形をとってみたいと考えている。その際、どのような進路選択をする場合にも、重要な意味を持つと思われる社会関係資本をテーマにした文献を選びたいと考えている。

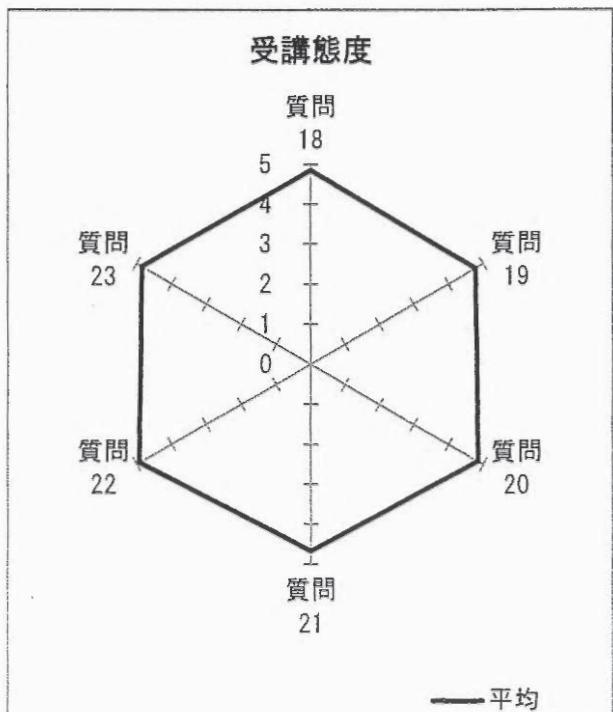
科目コード 817 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 重成 久美 保育実習指導 I a



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.7	4.7	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.9
質問21	4.7
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3 ...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	重成久美	保育実習指導 I a	27名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

当該科目は、保育士養成課程の保育実習 Ia（保育所）のための実習指導の科目である。まず、学生の受講態度を見ると、平均4.8点と比較的高い評価が示されている。このうち、18「授業に真面目に取り組んだと思うか」、20「欠席回数」、22「レポート・課題等に積極的に取り組んだか」、23「授業中の私語・携帯電話の自粛、教員及び他者の発言傾聴」の4項目は4.9点とかなりの高評価であった。当該授業は、実習指導であるため、多の科目よりも出席や課題提出が厳しく設定されているためであると推測される。しかしながら、21「授業の予習・復習をおこなったか」は4.7点と他より若干低い評価となったが、これは課題をこなすことが復習になっているためであると思われる。

一方、授業評価を見ると、平均4.8点と比較的高評価が示されており、とりわけ9「教員の話し方」、11「教員の説明のわかり易さ」についてはいずれも4.9点と高得点であった。しかし、8「教員の授業時間遵守」、10「機材・機器・板書等の効果的な使用」、13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、15「授業を理解できたと思うか」、16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」の5点は4.7点と他項目よりわずかに低い得点となった。授業時間の遵守、機材の使用、質問機会の確保については毎回の授業で行っているため、特に問題はないと思われる。しかしながら、授業の理解や興味・関心については、実習で困らないようにとの先回りの準備になりがちであるため、その必要性をしっかりと解く必要があるのかもしれない。実習指導は学生と指導教員が一心同体で学びを進めていく科目である。学生一人一人への寄り添い方についても工夫を重ねていきたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

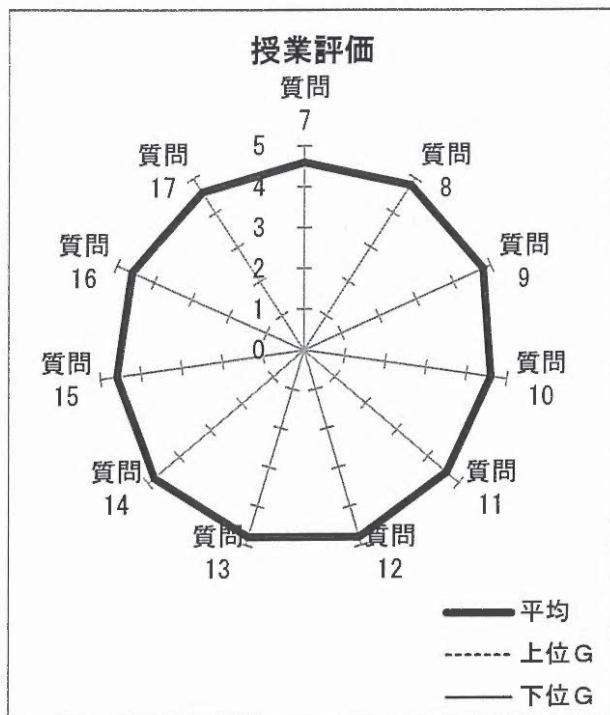
2018年度担当予定科目名：保育実習指導 I a

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

入学後初めて実習に出向くための授業であるため、どうしても緊張が伴ってしまうが、1つ1つの「授業の理解」や「興味・関心・意欲」について、もう少し1年生に寄り添った内容となるよう、楽しく、それでいて必要感がもてるような授業改善の工夫を行っていきたい。

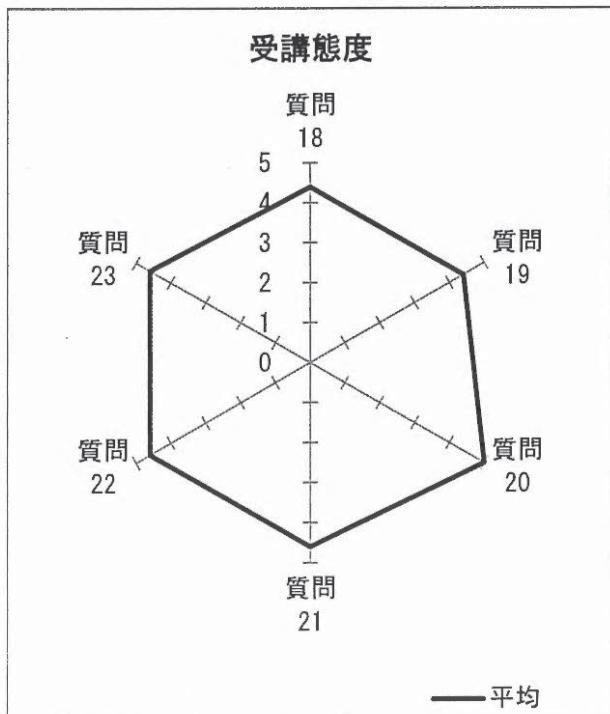
科目コード 818 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 重成 久美 3年セミナーb



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.6	4.6	#DIV/0!
質問11	4.6	4.6	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.6	4.6	#DIV/0!
平均	4.7	4.7	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.4
質問20	5.0
質問21	4.6
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	重成久美	3年セミナーb	6名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

当セミナーは、卒論テーマを「保育」「発達」「障害」などのカテゴリーで設定した学生6名の授業である。詳細は、「障害者の就労」「聴覚障害児の支援」「早期教育」「子どもの質問への回答」「子どもの想像力」「インクルーシブ保育」である。

まず、本結果の受講態度を見ると、平均4.6点となっており、評価の高い項目は20「欠席回数」5.0点、21「授業の予習・復習をおこなったか」、22「レポート・課題等に積極的に取り組んだか」、23「私語・携帯電話の自粛、教員及び他者の発言傾聴」4.6点であった。当該科目はほぼ毎回欠席することなく主体的に授業に取り組み、討議を楽しむ姿が見られ、課題は発表時に偏りがあった可能性はあるが、比較的よく準備を行っていたように思われる。

また、授業評価も平均4.7と比較的良好であり、8「教員の授業時間遵守」、9「教員の話し方」、12「教員の授業環境に対する配慮」、13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、14「学生の理解度の確認と授業への反映」の5項目が4.8点であった。一方、それ以外の6項目は4.6点であった。それぞれのテーマを深めるにあたり、まじめに考える学生たちではあるが、どのような方向性で進めるのか思案している学生が多かったため、発表担当の学生はいても、毎回各自の研究の進捗状況を丁寧に確認してやる機会が必要だったのかもしれない。

II. 2018年度に向けての取り組み

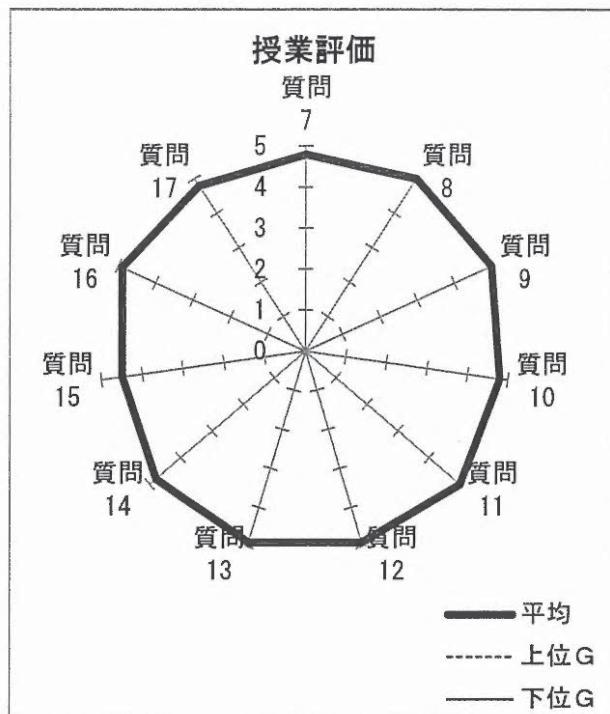
2018年度担当予定科目名：3年セミナー

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

初めて卒業論文を形にするにあたり、不安も多いことが想定される。そのため、できるだけ毎回各自の研究の進捗状況を丁寧に確認してやる機会をもつなど、一人一人の研究に丁寧に寄り添っていくことが必要であると思われる。

科目コード 821 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 江頭 ひとみ 健康相談活動の理論と方法



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.5	4.5	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

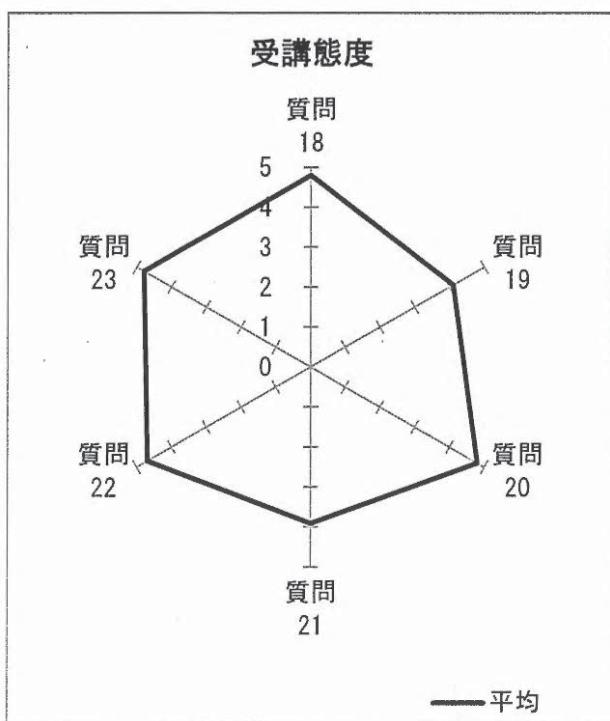
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.1
質問20	4.8
質問21	3.9
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.5

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	江頭 ひとみ	健康相談活動の理論と方法	11

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

○ 授業評価について

質問15「(自分は) 授業を理解できたと思うか」で評価4.5であった。その他の授業や指導に関する項目は、評価4.8~5.0であるのだが、学生にもっと力をつけていくためには、どの部分の学習内容の理解が難しかったのか、細部に振り返っていくことが必要と考える。

評価5.0が、質問8「教員の授業時間遵守」、質問9「教員の話し方」、質問11「教員の説明のわかり易さ」であった。

質問8「教員の授業時間遵守」は、これまで評価が低い方だったので、かなり気についていた。内容はこだわりたいので、授業準備や教材研究にかなり時間をかけた。だが、結果が評価されたことが、苦労が報われたようで、嬉しく思った。

質問9「教員の話し方」と、質問11「教員の説明のわかり易さ」については、講義を成立させるための基礎となる部分だと考えるので、学生からの評価が高く出たことで、これまで同様、今後も気がけていきたいと思った。

○ 受講態度の質問項目について

質問21「授業の予習復習をおこなったか」について、評価3.9と驚くほど低かった。次時の予告や定着させることの大切さはいつも指導していたのだが、確認が不足していたのだろうと反省している。

質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」が4.1と次に低かった。授業内容や到達目標を講義資料に記載していたのだが、それを記載していただけになってしまったのかもしれない。学生に予習復習の大切さや学習内容を自分のものにするための気構えについての指導が十分ではなかったと反省する。

質問18「(自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか」、質問20「欠席回数」、質問23「私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴」で4.8だった。授業に真面目に取り組んだ様子がわかり、ホッとした。

II. 2018年度に向けての取り組み

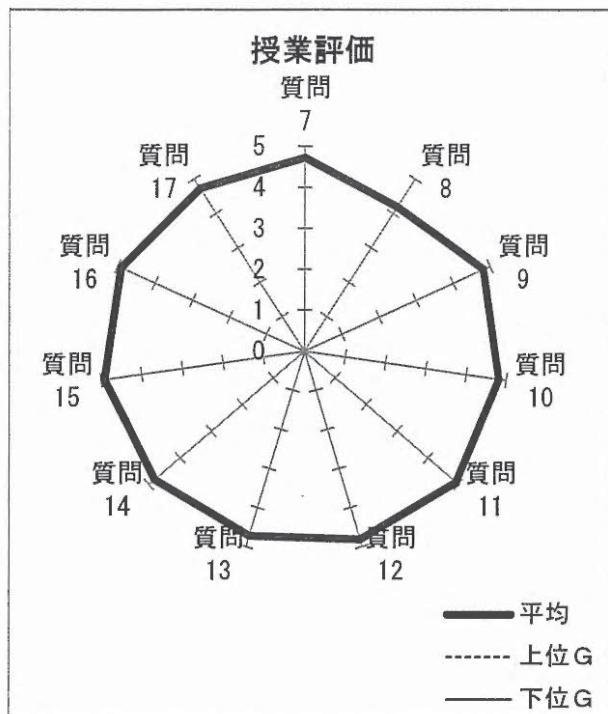
2018年度担当予定科目名：健康相談の理論と方法

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

○ 授業の到達目標等を、講義資料に記載するだけでなく、授業の中でしっかりと伝え、目標を持って講義を受けるよう指導していきたい。学生が自ら学習していこうという気持ちが持てるような指導の在り方を、模索していきたいと考える。また、これまで通り、分かりやすい授業に心掛けていきたいと思う。

科目コード 822 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 江頭 ひとみ 健康教育活動の研究



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 8	4.2	4.2	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.7	4.7	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

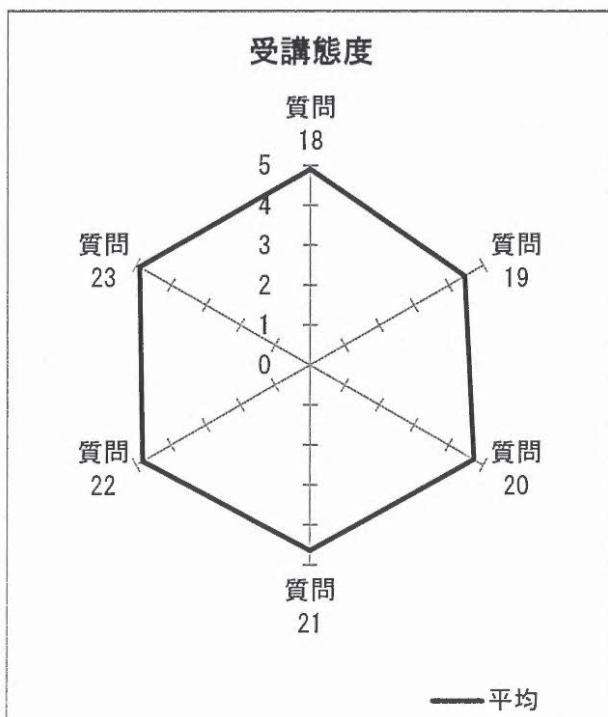
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.5
質問20	4.7
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	江頭 ひとみ	健康教育活動の研究	11

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

○ 授業評価について

質問8「教員の授業時間遵守」が評価4.2であった。これまででも、自分の課題であったので時間超過をかなり気にしてはいたのだが、やはり、内容にこだわってしまったと反省している。授業時間の開始で遅くなることはなかったが、授業研究において、グループでのワークショップで内容を深めさせていくことで学生に力をつけさせたいと、つい時間超過になってしまっていた。

他の授業評価は、4.7～4.9であった。

質問11「教師の説明のわかり易さ」、質問15「(自分は)授業を理解できたと思うか」、質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」が4.9であった。授業の分かり易さや授業の理解のところが、比較的評価が良かったので、安心した。

○ 受講態度の質問項目について

質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」が4.5と低かった。到達目標をはっきり示し、確認していくことが不足していたのかもしれない。十分ではなかったと反省する。

質問21「授業の予習復習をおこなったか」について、4.6であった。模擬授業をさせるに当たって、模擬授業の前に事前に個別指導を2回ずつ、講義外に時間を使って指導していた。学生自信も、何回も書き直したり、授業の練習をしたり、事前の取り組みをよく頑張っていた。学生自身が厳しく評価したのではないかと思う。

質問18「(自分は)授業に真面目に取り組んだと思うか」、質問23「私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴」で4.9だった。授業に真面目に取り組んだ様子が伺われる。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：健康教育活動の研究

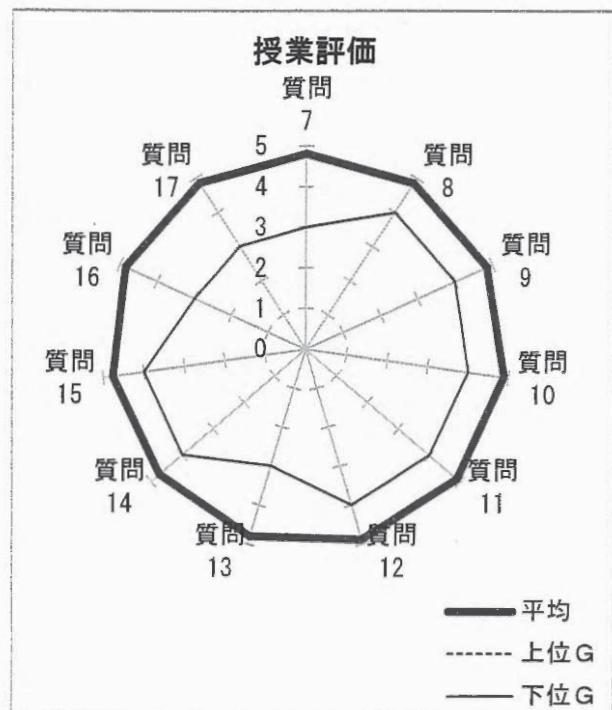
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

○ 授業の到達目標等を授業の中でしっかりと伝え、目標を持って講義を受けるよう指導していきたい。また、これまで通り、分かりやすい授業に心掛けていきたいと思う。

「教員の授業時間遵守」については、ずいぶん気をつけてはいたのだが、課題である。次年度は、授業時間の調節も行われるので、授業の内容量のバランスを考え、時間厳守に努めたいと思う。

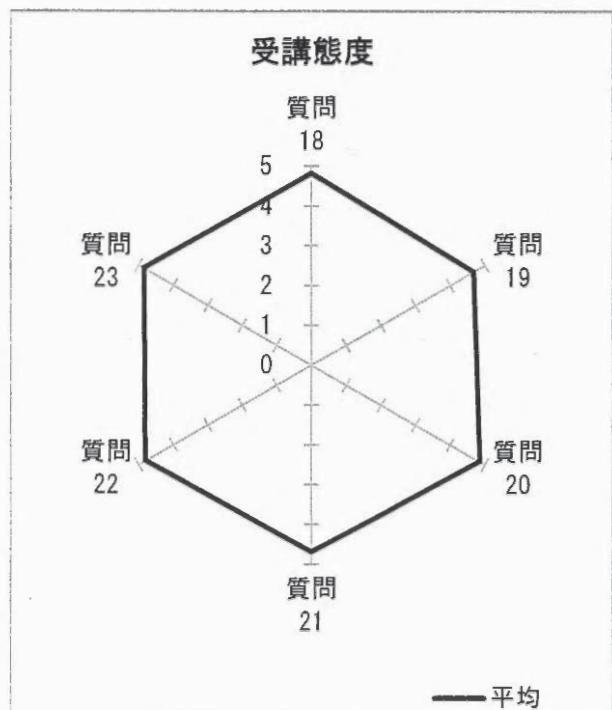
科目コード 823 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 福地 友子 保育実習指導 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.9	3.0
質問8	4.9	4.9	4.0
質問9	4.9	4.9	4.0
質問10	4.9	4.9	4.0
質問11	4.9	4.9	4.0
質問12	4.9	4.9	4.0
質問13	4.8	4.9	3.0
質問14	4.7	4.8	4.0
質問15	4.8	4.8	4.0
質問16	4.9	4.9	3.0
質問17	4.9	4.9	3.0
平均	4.8	4.9	3.6

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.7
質問20	4.9
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	福地友子	保育実習指導Ⅰ	26名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

保育士資格の必修科目で、1年後期から2年前期までの1年間の授業を3名の教員で担当している。

来年6月の保育実習にむけての開講となっているので、殆どの学生が真面目に取り組んでいた。

本結果の受講態度を見ると平均が4.7から4.9で、上位グループは4.8から4.9と概ね高い評価だったが、下位グループは、3.0から4.0と開きがあった。

下位グループの低い評価が、質問7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」、質問13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」、質問17「新しい知識・技術・理解等の習得への有用性」の項目で、3.0であった。学期初めには、授業計画をもとに、目標説明を行い、毎時の授業においても本日の内容についてのねらいを伝え取り組んできた。課題意識を持てるような実践・振り返りも行い、自己課題の認識を重視して授業をおこなってきた。学生とも努めてコミュニケーションを取り、個別の質問の機会を設けてきたが、まだ全ての学生に行き渡っていないようだ。学生の関心・意欲を喚起する工夫も考え授業を行って行きたい。

受講態度についても、平均が4.7から4.9と大変高い評価だった。

日誌などの課題においても何度もやり取りをし、積極的に取り組んでいる姿が多く見られた。

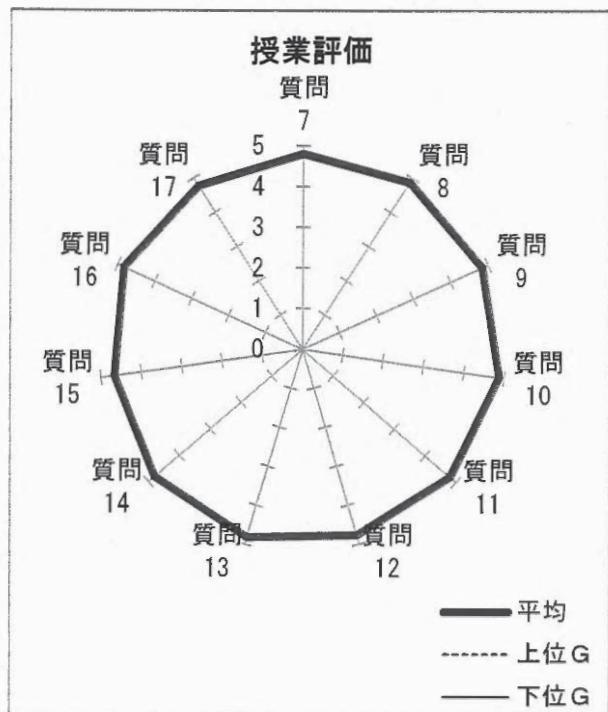
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：保育実習指導Ⅰ

今回の評価を踏まえ、学生に理解度を確認し、関心・意欲を引き出せるような授業展開を工夫していくたい。

科目コード 824 (2017年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 福地 友子 音楽表現 I b



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

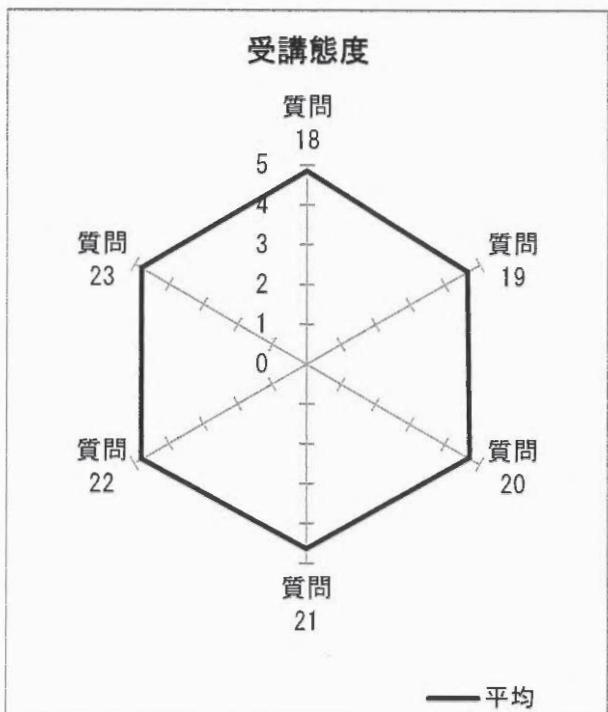
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.6
質問20	4.7
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	福地友子	音楽表現 I b	31名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

当該科目の声楽と音楽理論についてアンケートを行った。

今年度も声楽の授業では、現場の実践力となる技術習得にも重点を置き、学生による手遊びの発表を毎時行い、発達を踏まえた保育現場での活用法について学んだ。

音楽理論では、授業終了後暫く残り、質問の機会を作り、単元毎に小テストを行い、理解度の低い学生に対しては、個人指導を行った。

学生はみな意欲的に取り組んでいた。

授業評価については、平均4.7～4.9と大変良好であり、上位Gと下位Gの得点の開きも見られなかった。質問15「(自分は)授業を理解できたと思うか」においては、平均4.7の一番低い評価になっていたが、学期末試験の成績も概ね良く、殆どの学生が課題意識を持って取り組んだことによる成果だと思う。

受講態度においても、平均4.6～4.8と良好であった。

質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」、質問21「授業の予習・復習をおこなったか」においては、平均4.6と一番低い評価になっていたので、毎時の目標、ねらいなどをより明確に伝え、学生が見通しをもって取り組めるように心がけていきたい。予習・復習においては、毎時の手遊びの個人発表、音楽理論の課題提出などを頻繁に行い、みな意欲的に取り組んでいた。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：音楽表現Ib

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度も今年度に引き続き学生の習熟度を常に把握し、意欲を持って取り組める授業の展開を行っていきたい。